



2019年版

# 一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集

# よしとお詠よ(よしとお)



一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集  
2019年版



## 卷頭言

詩謡集委員会

委員長 たきの えいじ

言葉。なんて不思議な世界だろう。

話し言葉。手紙や小説等で使う書き言葉。そして声を使う前提で描く歌言葉。どれもみな言葉である。しかし、その言葉達は、使われ方で多種多様な世界を描く。日常会話では人の音声が言葉の表情を作る。つまり優しさや怒りや寂しさを描く。小説や新聞等は目で読む言葉。そして、歌化していく言葉。

私達が常に創意工夫をして生み出しているのがこの言葉だ。その言葉達にメロディーがつく。その事で、言葉は全く新しい世界を旅していく。そう、歌の言葉を、私は、『旅することば』と思っている。そしてそれは正に人生そのものもあると思っている。

今年50回を迎え、多くの旅のことばが寄せられました。その情熱でこの詩謡集が出来ました事、改めて感謝しています。

# 序に代えて

サトウハチロー

この詩集の中の詩は、どれもこれも、全部新作なのです。

これは、こういう詩集としてはめずらしいことです。

会員諸兄姉が、この詩集に力をそそぎ一生懸命になつた証拠です。うれしいことです。

ひまわりのようなウタ

かすみ草のようなウタ

コクリコのような詩

山すみれのような詩

川の流れ、海の色、雲の形、風の匂い、町の灯り、山のただずまい……どの詩をみても、その詩のひとつひとつに特長がにじみ出ているのです。これもうれしいことです。

二十代のひと――

三十代のひと――

四十代、五十代のひと、それにボクみたいに六十代のものも……誰も彼もが……一篇ずつの詩を持ちよつて出来上がつたこの詩集。

ボクは、この詩集が出たことに、ほんとうの喜びを感じています。

よい仕事というものは、つづけて行きたいものです。ボクとしては、これ以上のものを次に、そうしてその次には、更に立派なものをして行きたいのです。

これが出て、なんだかたのしくなりました。

空が晴れてきたような気さえしています。

昭和四十五年陽春吉日

(日本作詩家協会会长)



卷頭言……………たきの　えいじ…………一

特別寄稿①

港町十三番地（新バージョン）……………石本　美由起…………四

特別寄稿②

12人の踊り子……………星野　哲郎…………五

そろそろ	はらはら	おんなです	アーヴアン沢井	一〇
愛のワルツ			藍慶子	二二
お前という名の故里		合	合	二三
酒のララバイ		相	原利夫	二三
讃歌		蒼	ヨシヒロ	二四
西大寺会陽		木	圭介	二五
君を迎えて春になる		青	木勇一	二六
昭和からおとこ道		赤	坂佳津子	二七
今宵二重奏		明	石真帆	二八
山吹きの宿		茜	まさお	二九
ふたたびのあなた		阿	川礼	三〇
百日紅		秋	篠さと	三一
ぼたん		麻	崎倉恵	三二
やまと情歌		浅	多美智子	三三
あんたとネオン川		あさだ	あさお	三四
甘い涙		あさの	いづみ	三五
逢瀬の宿		好詩永	…………	三六
日暮れ道		飛鳥	…………	三七
絵ハガキの町		美勇樹	…………	三八
芝浜夫婦夢		香里	…………	三九
男の北挽歌		…………	…………	四〇



昭和が遠くなる前に	榎
はての浜の恋	恵
ふらり人	本
ハバナ・ラブコール	充
恋雨のバラード	行
いちばんの御馳走	羅
人生哀歌	行
不思議だね	七一
母への詩	七二
バツイチナイトストーリー	七三
ふたり道	七四
忘戀譜	七五
秋桜列車	七六
花曼陀羅	七七
白鳥の湯	七八
もう一度	七九
あしたを歩こうよ	七〇
愛は狂奏曲	七一
下町育ち	七二
愛を翼にのせて	七三
愛は狂奏曲	七四
哀未練	七五
50年人生へのララバイ	七六
うたで任せを	七七
お嬢大漁の船を待て	七八
愛の微熱	七九
雨と雲	七一〇
女の気持	七一〇
夜明けの夢 —或る明治志士の唄—	七一〇
一途	七一〇
岸 貴 菊 川 川 川 紙 金 加 加 片 一 垣 乙 地 見 幸 伸 梅 梁	八一〇
田 志 村 上 西 井 谷 澤 藤 藤 桐 和 丸 八 八 八 六 八 四 八 三 八 二 八 一 八 ○	八九〇
のぶや たかし てる 智 子 春 英 良 丈 けい 子 猛 策 子 丸 八 八 八 六 八 五 八 三 八 二 八 一 八 ○	八九〇

猫になりたい	春本 番	喜多 條	忠
マドンナ	北 村	けいこ	○二
ふたりで感謝ありがとう	村 直之	えりこ	○一
「リンゴの唄」が響いた街で	木 村	一〇三	○五
白鷺の舞い	京 木	一〇四	一〇六
（姫路城）	村 賢	一〇七	一〇八
乱れ恋鼓	京 光	一〇九	一〇九
河原撫子	京 恵	一〇八	一〇八
天竜の罠師	京 司	一〇七	一〇七
止めらるはねる	京 郎	一〇七	一〇七
品川宿	京 蘭	一〇八	一〇八
夜明けの朝顔	久 草	一〇九	一〇九
雨のオペラ座	桐 霧	一〇九	一〇九
屋台酒	久 国	一〇九	一〇九
故郷は夢の出発	波 雾	一〇九	一〇九
人生総仕上げ	野 野	一〇九	一〇九
白鷺 鶩よ	波 流	一〇九	一〇九
道 程	久 京	一〇九	一〇九
涙を連れて帰ろうか	國 介	一〇九	一〇九
薦の葉の店つかの間の夢	枝 志	一〇九	一〇九
3日目のメランコリー	星 一	一〇九	一〇九
男の海峡	仁 二	一〇九	一〇九
開運橋	枝 二	一〇九	一〇九
恋流れ・つがる女三味線	国 三	一〇九	一〇九
帰つておいで	波 三	一〇九	一〇九
淡路島七福神めぐり	流 一	一〇九	一〇九
ジタン・恋フランソ	沙 一	一〇九	一〇九
兄ちゃんの貯金箱	忠 一	一〇九	一〇九
古希・仲間たち	忠 一	一〇九	一〇九
斎 在	k / z e n n a	一八	一八
藤 郷	高 坂	のぼる	一九
清 人	木 木	夏	一九
人	木 木	こじま	一九
		かずみ	一九
		一七	一七
		一六	一六
		一五	一五
		一四	一四
		一三	一三
		一二	一二
		一一	一一
		一〇	一〇

温泉風呂の詩	さいとうみつお	一一一
京都つれづれ	坂口照幸	一三二
パリはいじわる	沙木実里	一三三
大阪の華	佐久間信	一三四
恋する冬の花たち	佐々木ひさこ	一三五
「小香女」劇場	佐渡ミユキ	一三六
愛の二重連星	佐東たどる	一三七
じょんから修行旅	佐野源左衛門一文	一三八
六本木Night	沢利明	一三九
想い出	沢富美子	一四〇
づくり	山藤せい子	一四一
漁火恋唄	藤咲まだか	一四二
林檎のはちみつトースト	北龍一	一四三
牛のこころ	下野千恵	一四五
夫婦雨情	登美子	一四五
夢 桜	城田正志	一四六
城 桜	城岡誠	一四八
島暮らし	白川千恵	一四九
ふるさとの友	下野登美子	一四九
春 蟬	新田正志	一四九
おまえが居たから	城田誠	一四九
故郷よいつまでも	城岡誠	一四九
大阪ラブ、アゲイン	木田正志	一四九
洒呑み権六	木木田正志	一四九
里山ラプソディー	木木田正志	一四九
ひたち夜景	木木田正志	一四九
風の旅人	木木田正志	一四九
長崎ぶらぶら節	木木田正志	一四九
おいでや音頭	木木田正志	一四九
富士礼賛	木木田正志	一四九
長良川恋灯り	木木田正志	一四九

青春遠花火	そんなかすみ草	高城のぼる	高須はじめ	一六二
海の見える飲食店	恋の扉をノックして	高塚和美	高塚和美	一六三
恋の扉をノックして	定年就活節	高橋耕作	高橋耕作	一六四
そぞろ外苑	牛を捜した男	高橋麗秋	高橋麗秋	一六六
伊豆の温泉すぐろく	希望の金風	高畠じゅん子	高畠じゅん子	一六七
花菖蒲	花菖蒲	滝沢まさとし	滝沢まさとし	一七〇
春しぐれ	スキニーに恋をして	たきのえいじ	たきのえいじ	一七一
寒鴉	死ぬなら女の隣りで	滝本哲也	滝本哲也	一七二
異国の花嫁	俺の人生踏むなよ	たぐわん	たぐわん	一七三
竹寺	ラスト・メール	竹内清訓	竹内清訓	一七四
思い出のきみ	竹島隆夫	タバコ	タバコ	一七五
熱海梅園・早い春	多手石松	田中いぶき	田中いぶき	一七八
心ひかれて	たなか	田中修	田中修	一七九
恋・夢戯	ゆきを	至	至	一八〇
笹津橋で	たにはら伸	一八三	一八三	一八三
偉大なる金正恩さま江	多野亮	一八四	一八四	一八四
花物語	玉利要	一八五	一八五	一八五
ふるさとがあつて よかつたな	千秋三	仁紀	仁紀	一八六
雑草の歌	つじ伸	一	一	一八七
粒良せい子	津田雅道	一八九	一八九	一八九

ゾ・ゾ・ゾ・ゾンビ	魔法の言葉	寺島幸生	一九一
恋のなごり	恋のなごり	戸川智砂子	一九二
令和はまほろば	令和はまほろば	田代一祥	一九三
親父	親父	有田一九五	一九五
父ちゃんの一升瓶	父ちゃんの一升瓶	富永井緒	一九六
花のゆくえ	花のゆくえ	奈永井	一九七
雪の酒	雪の酒	ながた恵秋	一九八
令和背負つて今日も飛ぐ	令和背負つて今日も飛ぐ	中原聖子	一九九
面影ばなし	面影ばなし	中田捷	一〇〇
思案の駅	思案の駅	長山沙紀	一〇一
心に降る涙	心に降る涙	浪花乃月	一〇三
カラオケ人生	カラオケ人生	鳴海徳一	一〇四
俺と小石とお袋と	俺と小石とお袋と	難波伸安	一〇五
孤独と言う名の人にも	一日遅れの手紙	西井陽子	一〇六
運命を生きる	運命を生きる	沼田町子	一〇七
君と僕	君と僕	丹羽照彦	一〇八
母を偲ぶ	母を偲ぶ	二瓶みち子	一〇九
つきんぼ漁歌	つきんぼ漁歌	野沢市朗	一一〇
紅葉舟暖簾	紅葉舟暖簾	NO MOSS	一一一
相生町で	相生町で	野澤本峰	一一二
○○○の紅鳩	○○○の紅鳩	沼澤文子	一一三
愛されて夢二	愛されて夢二	丹羽峰永倅	一二四
鶴の舞い橋	鶴の舞い橋	野沢文子	一二五
予感	予感	浜田真寿美	一二六
たそがれ夫婦花	たそがれ夫婦花	華橋みづき	一二七
結婚式	結婚式	茂源太	一二八
あ・云の絆	あ・云の絆	伸代一三〇	一二九

人生アイヤ節	潮来・サツバ舟	林	はら	あきら	利紀
俺の昭和	備中松山城	原	原	文彦	一二三
命つないで	ふるさと山桜	遙	遙	北斗	一二四
夜叉の川	居酒屋「千草」	肥田	肥田	晃輔	一三五
笑いは心の宝だよ	夜叉の川	日	日	亨	一二六
雨よ今夜は	居酒屋「千草」	平	平	歩果	一二七
娘の成人式	居酒屋「千草」	風	風	瀬ゆたか	一三八
倉敷 哀愁	居酒屋「千草」	廣	廣	雅也	一三九
命の縁	居酒屋「千草」	藤	藤	外美子	一三〇
望郷三代	居酒屋「千草」	不	藤	二美風	一三一
令和影法師	居酒屋「千草」	二	藤	誠一	一三二
ふる里はもう秋	ふる里はもう秋	三	藤	かずま	一三三
大和路に花を	ふる里はもう秋	四	藤	本純行	一三四
別れの予感	ふる里はもう秋	五	藤	本雅則	一三五
獅子とおかげひよつとこ(獅子舞ソング)	堀	六	藤	月まさる	一三六
最後に一度、うたう歌	堀	七	文誠	三朗	一三七
宵どれ挽歌	堀	八	天翔	三朗	一三八
旅の道	堀	九	丸	まさし	一三九
ひとりごと	堀	十	天	丸	一四〇
心の旅路	堀	十一	氣流	流	一四一
秋の月	堀	十二	映	二	一四二
オカチメンコでフラメンコ	松真	十三	城	たかし	一四三
両親の命のバトン	松真	十四	下	純	一四四
秋	松井	十五	井眞佐子	一四五	一四五
捷夫	松井	十六	尾博之	一四六	一四六
仰げば尊し	松井	十七	岡弘	一	一四七
	松井	十八	岡徳峰	一	一四八
	松井	十九	下美佐子	一	一四九

二人の運命	.....	松原	かおり	五一
悲恋白梅しづく	.....	松本	摂子	一五二
迷い箸	.....	真鍋	加津美	一五三
ええお日和さん	.....	マヒルムラサキ	一五四	
心ぬくめ酒	.....	丸山	八留男	一五五
降りみ降らすみ	.....	まんだ	あつこ	一五六
人生の花	.....	三浦	節子	一五七
心の忘れな草	.....	三浦	正行	一五八
団子とタンゴ	.....	三木	貴裕子	一五九
夫婦の旅路	.....	三木	政和	一六〇
男華	.....	水紀	美春	一六三
銀幕	.....	木里	まさる	一六一
想い出：お母さん	.....	三里	こうじ	一六二
みれんという名の港町	.....	水木	れいじ	一六四
時代の旅人	～巡り会い～	木紀	美春	一六五
女のたびじ	.....	みさき	まさる	一六六
女の将棋宿	.....	みね	れいじ	一六七
酒場虫	.....	みね	隆	一六八
ちぎれ雲	.....	峰崎	林二郎	一六九
鷗三味線	.....	箕山	しげる	一七〇
女の旅路	.....	宮内	たけし	一七一
きんかんの木	.....	宮崎	和子	一七二
音戸の瀬戸の夫婦漁	.....	宮代	よしはる	一七三
蒼二散りユク	.....	三好	清隆	一七四
一陽来復：男華	.....	美山	純愛	一七五
東京ゆりかもめ	.....	宮田	一七六	
あなたのがに	.....	武笠	和夫	一七七
百日紅	.....	木田	るり	一七八
代わりばんこ	.....	茂村	けんじ	一七九
小雪	.....	武笠	平一	一八〇

梅花の宴・鏡前の花嫁	桃	夢	一八一
帰りたい景色	森	光	一八二
夜のエアーテーミナル	森	本	アキラ
恋するピカソに7時半	矢坂	秀司	一八三
もつたいない	八代	圭一	一八四
高山恋しづく	八代	保孝	一八五
人生坂	山甲斐	晶子	一八六
人生の道	山川	伴一	一八七
おかんの祝言	山川	一八八	
雪かぶり	山田	貴美	一八九
母娘白梅	山田	輝一	一九〇
眠らない花	山田	早苗	一九一
返還北方領土	山田	雄一	一九二
花影ワルツ	山田	那津子	一九三
あなたのエピローグ	山田	孝政	一九四
さよなら一めん	山田	那津子	一九五
愛の歌	山田	広茂	一九六
公園の主はノラ猫様じや	山田	城れい子	一九七
ひみつの恋にBye!	山田	鶴ねね	一九八
子守歌(FOR YOU)	湯川	れい子	一九九
無情の波止場	湯川	ちかげ	二〇〇
酒のゆめ	由良	のぶき	二〇一
今逢えるなら	由良	ユメ子	二〇二
断崖の碑	由良	ゆりこ	二〇三
おこん	由良	恵子	二〇四
ベタ踏んで愛	由良	花笑	二〇五
もう一度愛して	由良	こじま	二〇六
時の迷子	由良	一三〇八	
朝ドラブルース	井省和	一三〇九	
すずらん～lily of the valley～	吉野和幸	一三〇九	

I

E

大漁恋女房	龍 YAMATO	三一
ふるさとの親父よ	綿	木 義 昭
明智光秀に候う	渡	三一
心中淨蓮の滝	渡	辺 萤 雪
あなたそろそろお盆です	渡	三一
編集後記	鰐	久 士
	村	三一
	久	四
	士	五
	兔	三一
	三	四
	一	五
	七	七

題字　たきの　えいじ